

2019年度 こどもエコクラブ

サポーターアンケート結果報告書



公益財団法人日本環境協会
こどもエコクラブ全国事務局

調査のあらまし

【調査目的】

こどもエコクラブのサポーター及び活動の実態を把握し、こどもエコクラブが持続可能な社会づくりの担い手育成に対してどのように貢献しているか、またどのような課題を抱えているかを明らかにするとともに、調査結果を関係者と共有し、今後の事業展開の参考としていただきます。

【実施概要】

1. 対象

2019年度登録クラブ(1,868クラブ、2020年3月末時点)のうち

①メールアドレスが登録されている 1,436クラブ

②FAX番号が登録されている 69クラブ

合計1,505クラブ

2. 実施期間

2020年3月4日～4月3日

3. 実施方法

・アンケート回答用ウェブページを作成してメールまたはFAXでURLを案内して回答を依頼

・インターネットが使用できないクラブにはFAXでの回答を依頼

※未回答のクラブに対して3月23日に再度回答をお願いしました

4. 有効回答数

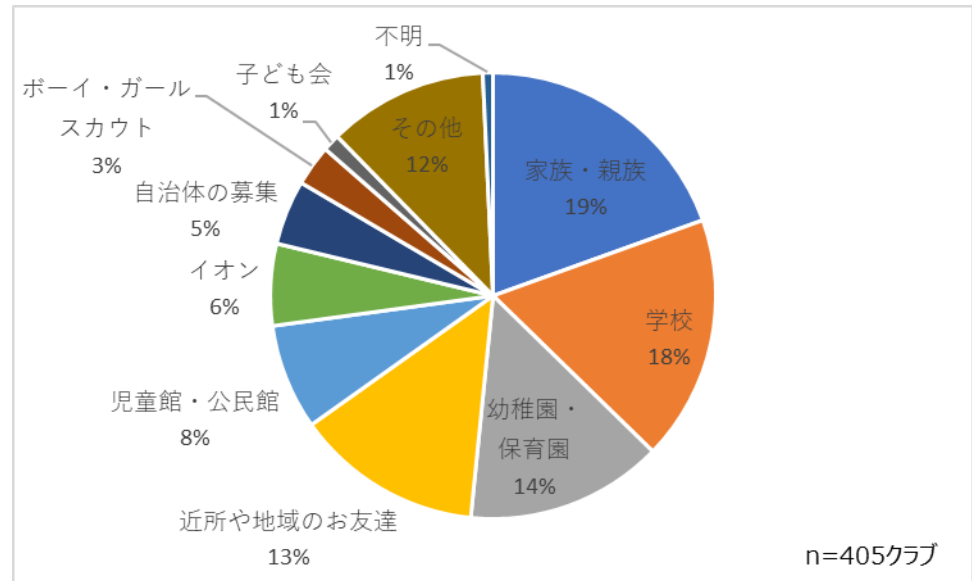
①ウェブサイトからの回答:372件

②FAX等での回答:33件

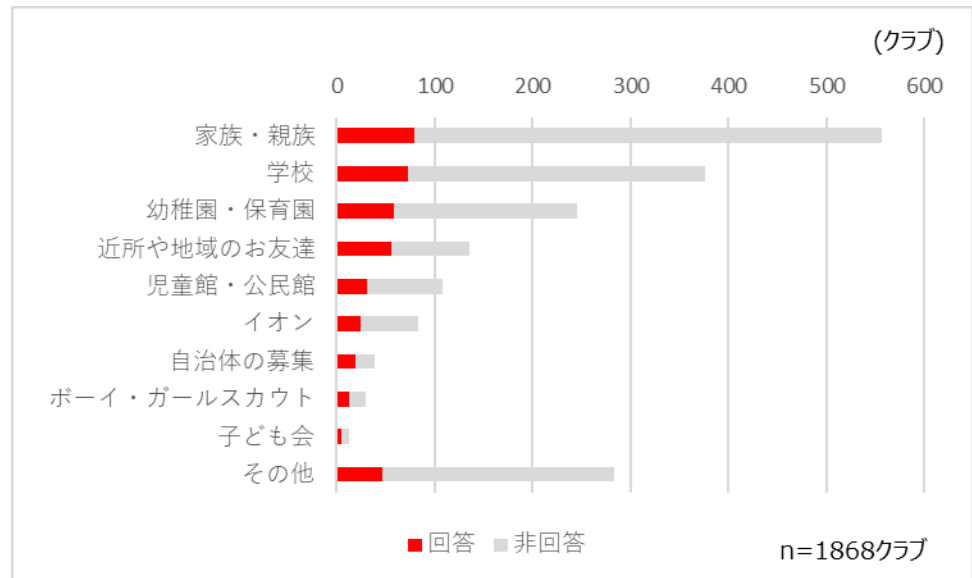
合計:405件(回答率26.9%)

多様な設立形態のクラブから回答をいただきました

- 右の図は、アンケートに回答をいただいたクラブの設立形態を表します。
- 親子で結成したクラブ、学校で取り組むクラブ、近所のお友達が集まったクラブなど実に多彩な設置形態のクラブから回答を得ることができました。
- このように多様な集団に所属する子どもたちが「こどもエコクラブ」の名のもと、全国で活動しています。

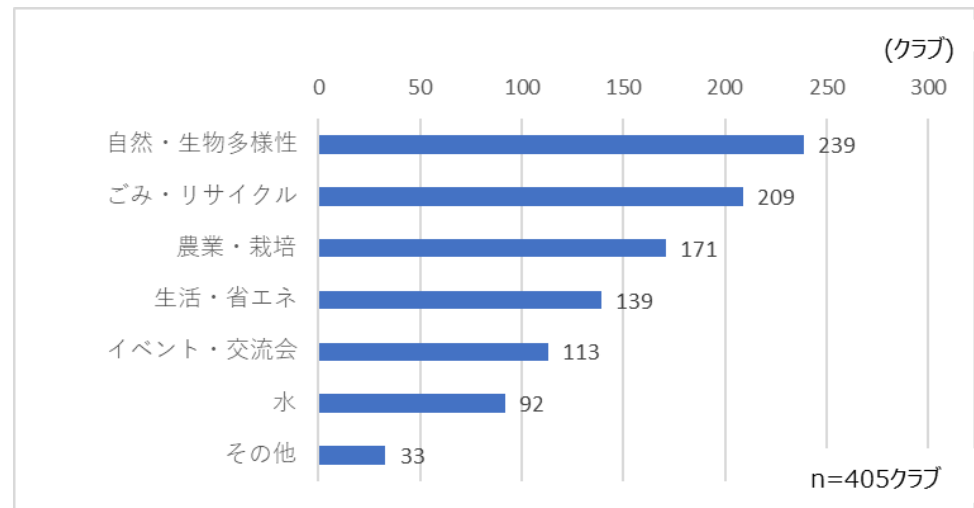


- 右の図は、こどもエコクラブ全国事務局が管理するデータベースを基にして2020年3月末時点で登録があったこどもエコクラブ1868団体を形態別に表したものです。
- クラブの設置形態別に、回答をいただいた数を赤く色づけしています。
- 回答の比率で見ると「近所や地域のお友達」が結成したクラブがやや高いようです。

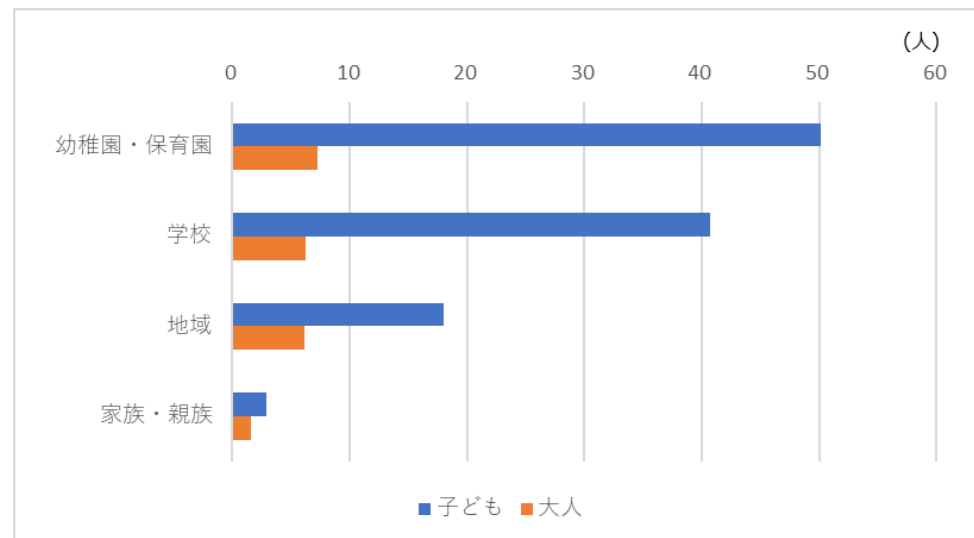


多様な活動分野・参加人数

- 右上の図は主な活動分野を表します。選択肢から3つまで選んでいただきました。
- 自然や生き物をテーマとした活動が最も多く、「ごみ・リサイクル」、「農業・栽培」、「生活・省エネ」の順となりました。

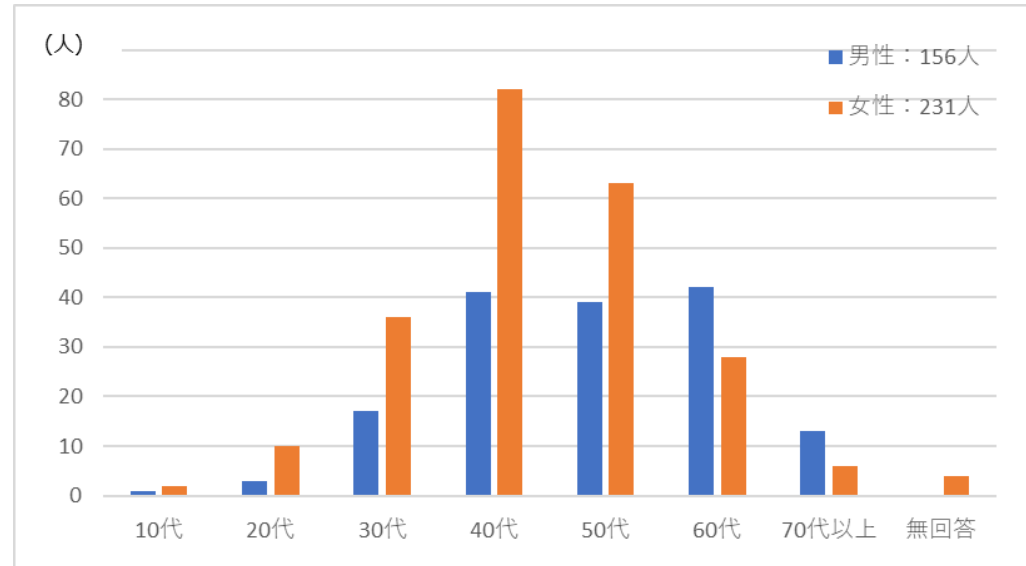


- 右の図は1回あたりの平均参加人数を表します。
- 学校は約40人であり、クラス単位で活動するクラブが多く、幼稚園・保育園は園全体で活動しているクラブが多いことが想像できます。

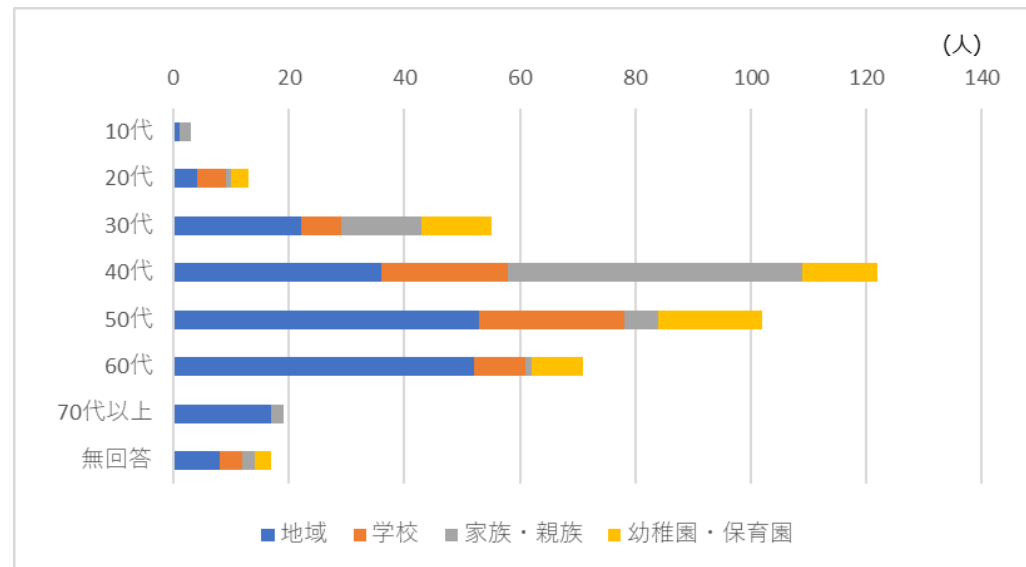


代表サポーターは多様性に富んでいます (1) 年代

- 右の図は、代表サポーターの年代と性別を表しています。幅広い年代がありますが、中でも**40～50代の女性が多い**ことが特徴です。「働き盛り年代」が地域の環境問題に携わっていただいていることが本事業の大きな強みです。
- 「家族」のクラブは、母親が代表サポーターとなるケースが多く、子どもの成長に影響力が強い母親が携わることも強みです。
- **10～20代の若者世代が少なく**、若いサポーターの掘り起こしが今後の課題です。

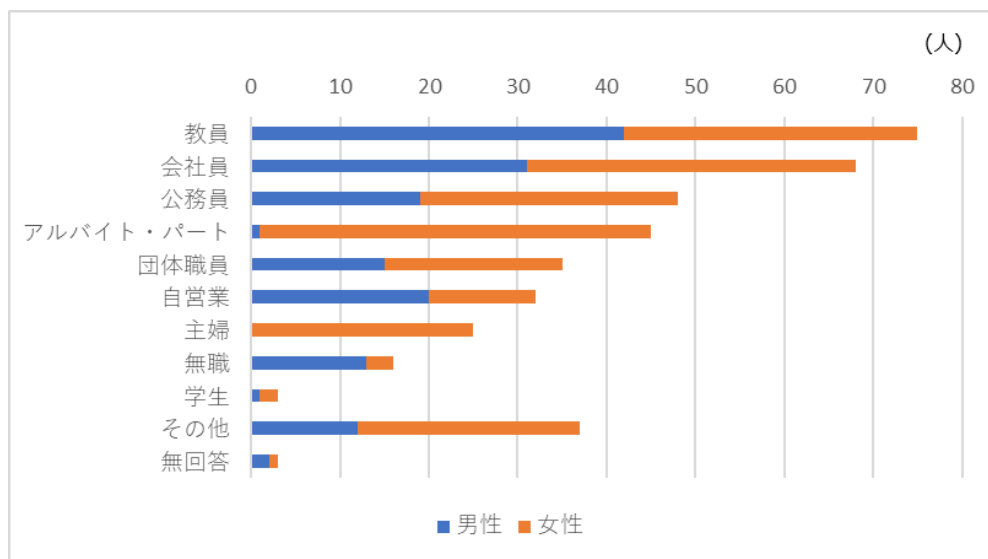


- 右の図は、クラブの設立形態別に代表サポーターの年代を表します。ここでは「学校」、「家族・親族」、「幼稚園・保育園」以外を「地域」と一括りにしています(以下同じ)。
- 「家族」は幼児～小学生が多いことから、代表サポーターは**40代が多**くなります。
- 「学校」では、校長、教頭、主任等が代表サポーターとなることが多いため、**50代が最も多**くなっていると考えられます。
- 「地域」は**70代以上の方が目立ち**ますが、若い層もあり、幅広い年代層がクラブを支えていることがわかります。

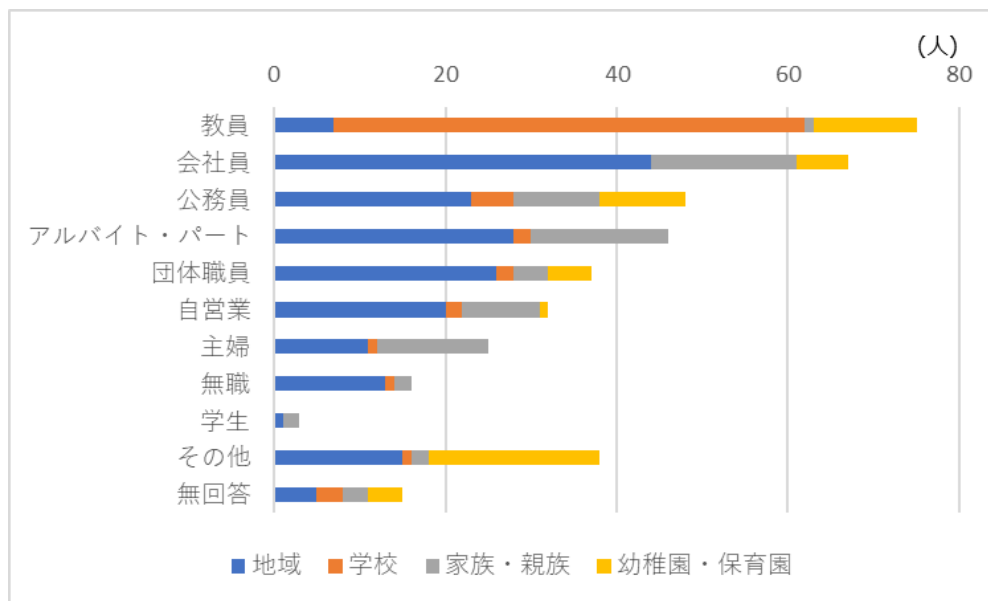


代表サポーターは多様性に富んでいます (2) 職業

- 右の図は、代表サポーターの職業と性別を表します。様々な職業の方が子どもたちの環境活動をサポートしてくださっていることがわかりました。
- セクターを越えて地域の環境問題に携わっていただいている方々とのネットワークを築いていることが本事業の大きな強みです。この強みを活かして地域課題解決のためにマルチ・ステークホルダーによる協働をさらに強化することが今後の課題です。

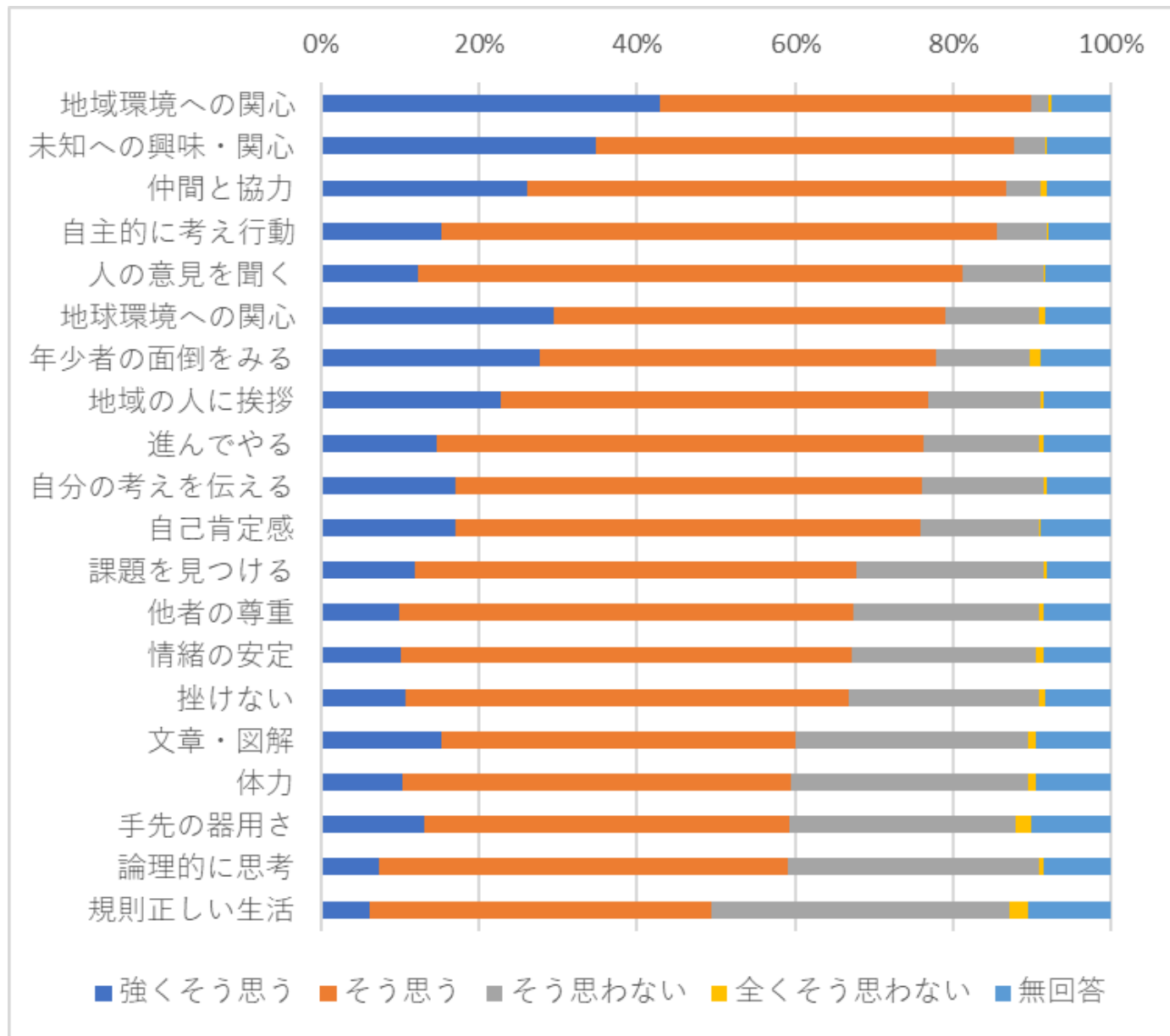


- 右の図は、クラブの設立形態別に代表サポーターの職業を表します。
- 「家族」は幼児～小学生が多いことから、代表サポーターは主婦の方が多く考えられます。
- 「学校」は教員が多いのは当然ですが、教員以外の方も学校での活動をサポートしていただいていることがわかります。
- 「地域」のクラブは、非常に幅広い職業の方が関わっています。



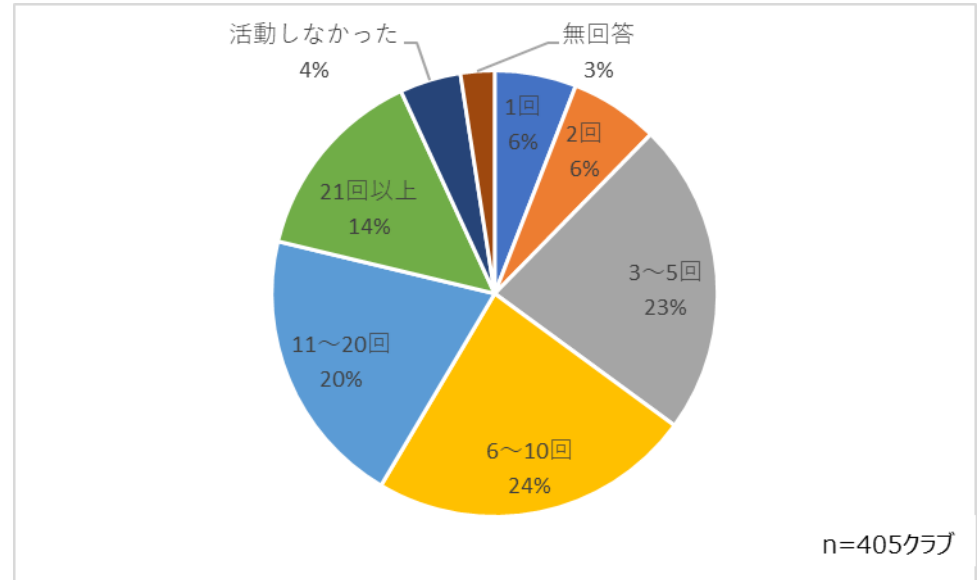
こどもエコクラブはどのように子どもの成長を促しているか

- 右の図は、代表サポーターの方が、こどもエコクラブの活動によって子どもがどのように成長していると感じているかを表します。
- 20の項目ごとに「強く思う」「そう思う」「そう思わない」「全くそう思わない」の4つの選択肢の中から回答していただきました。
- こどもエコクラブ活動によって「地域への関心」「未知への興味・関心」が高まり、「仲間と協力」し「自主的に考え行動」できるようになるとの回答が多くありました。

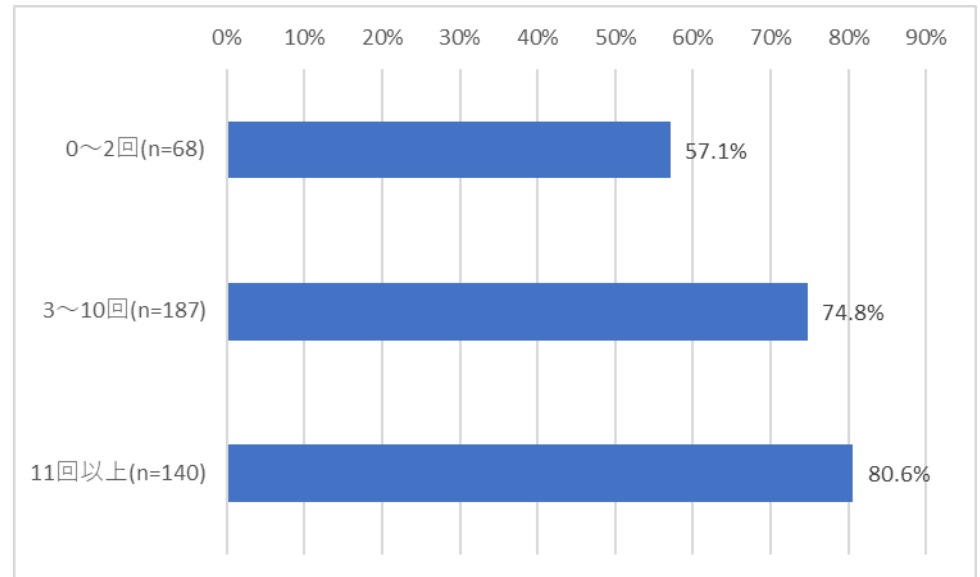


活動回数と子どもの成長

- 右の図は、一年間にクラブが行った活動の回数を表しています。
- 大多数のクラブが複数回活動しており、毎月1回以上活動しているクラブも約3分の1ありました。
- 継続して繰り返し活動することにより子どもたちの成長を促すこともエコクラブのコンセプトが浸透していることがうかがえます。

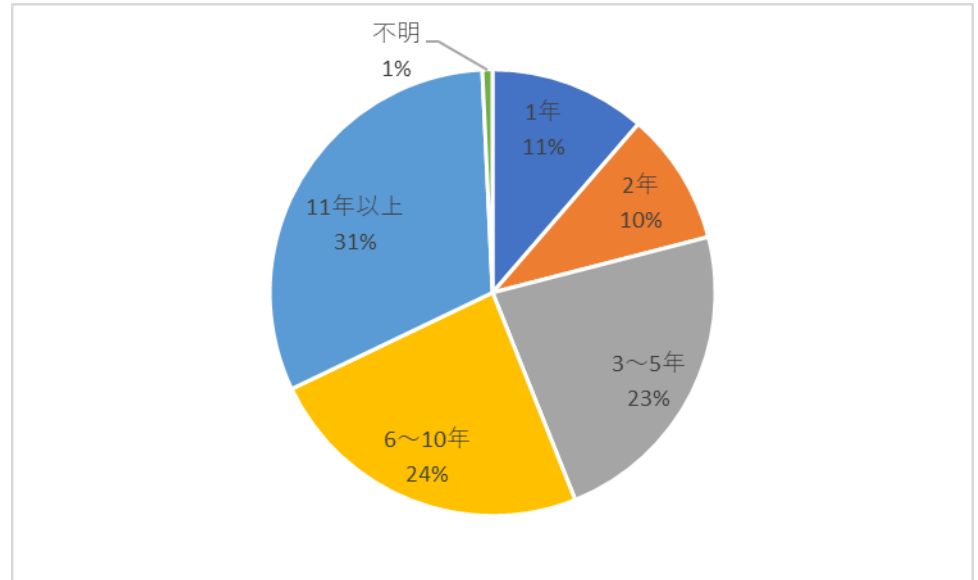


- 右の図は、年間活動回数が多いクラブほど子どもの成長を感じていることを表しています。
- 子どもの成長を把握する20の指標で肯定的な回答(=「強くそう思う」「そう思う」)数を数え、3段階の活動回数でクロス集計しました。
- 繰り返し継続的に活動するクラブをさらに増やすよう取り組みを強めることが課題です。

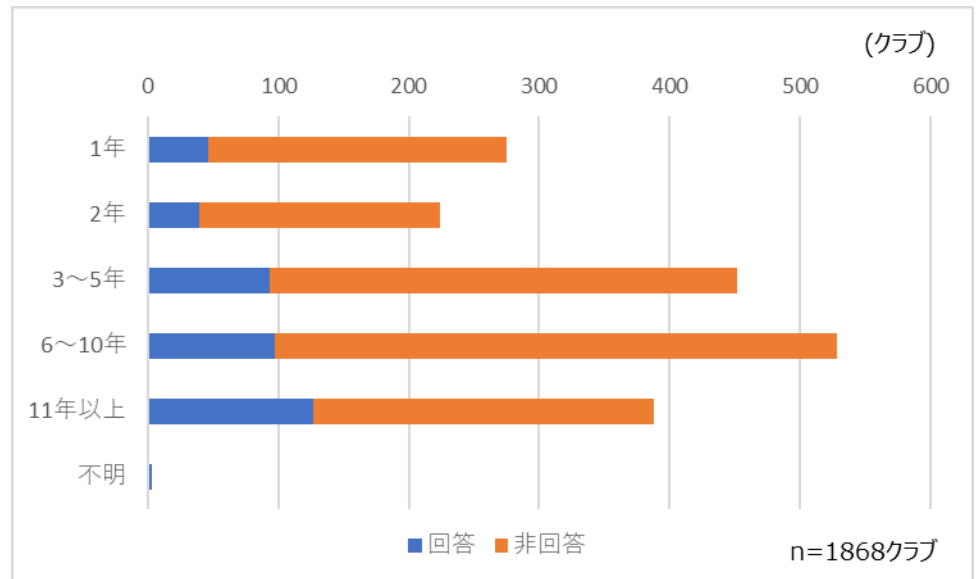


活動年数と子どもの成長（1）

- 右の図は、アンケートに回答をいただいたクラブの活動年数を表します。
- 2019年度に初めて登録したクラブから11年以上継続しているクラブまでご回答をいただきました。
- 長く活動が続けるクラブを増やすことが課題です。

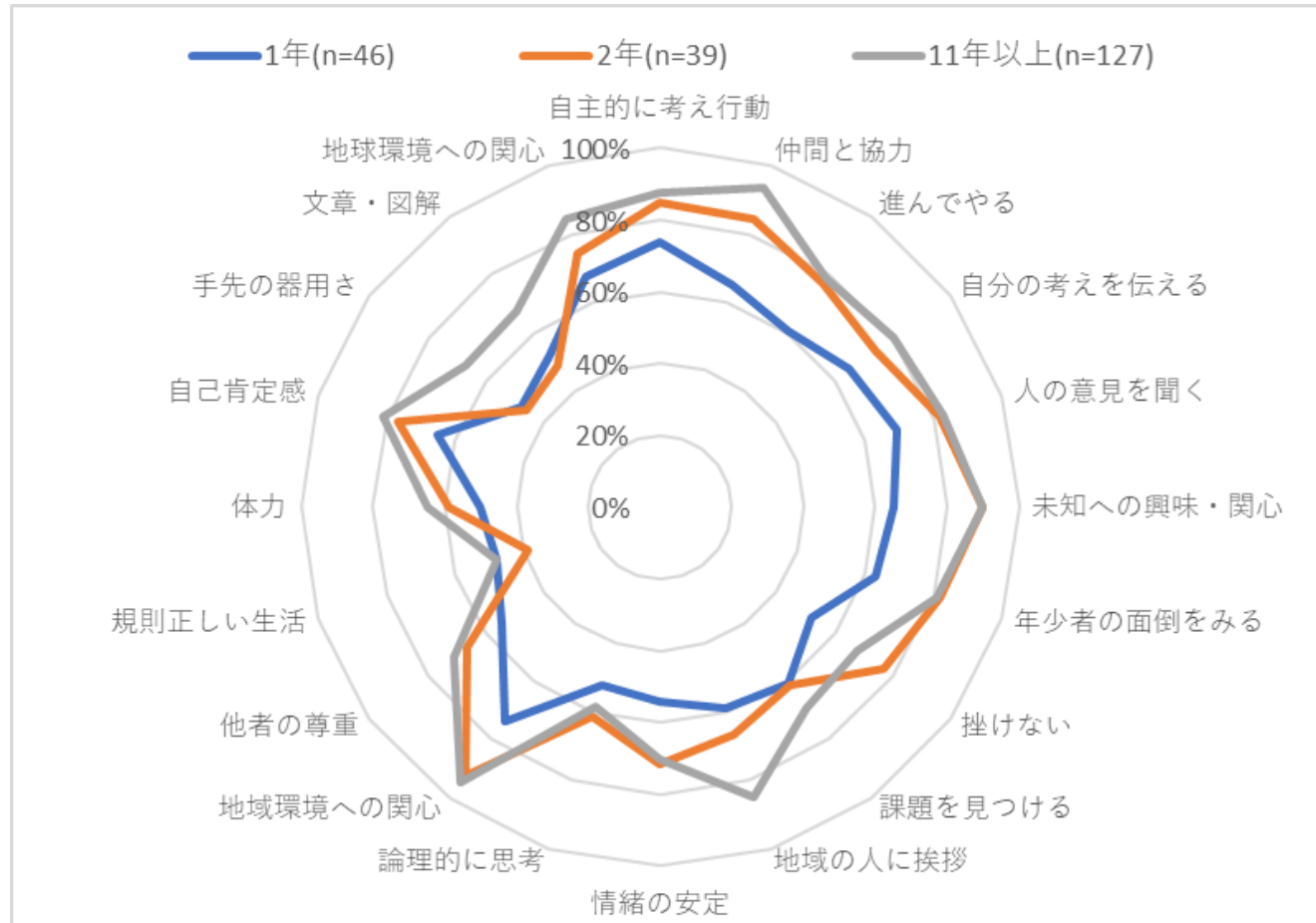


- 右の図は、こどもエコクラブ全国事務局が管理するデータベースを基にして2020年3月末時点で登録があった1868の子どもエコクラブを年数別に表したものです。
- 3年以上活動が続けているクラブの数が多いことがわかります。
- アンケートにご回答いただいたクラブ数を赤く色づけしました。
- 活動年数が短いクラブからも積極的にご回答をいただいていることがわかります。



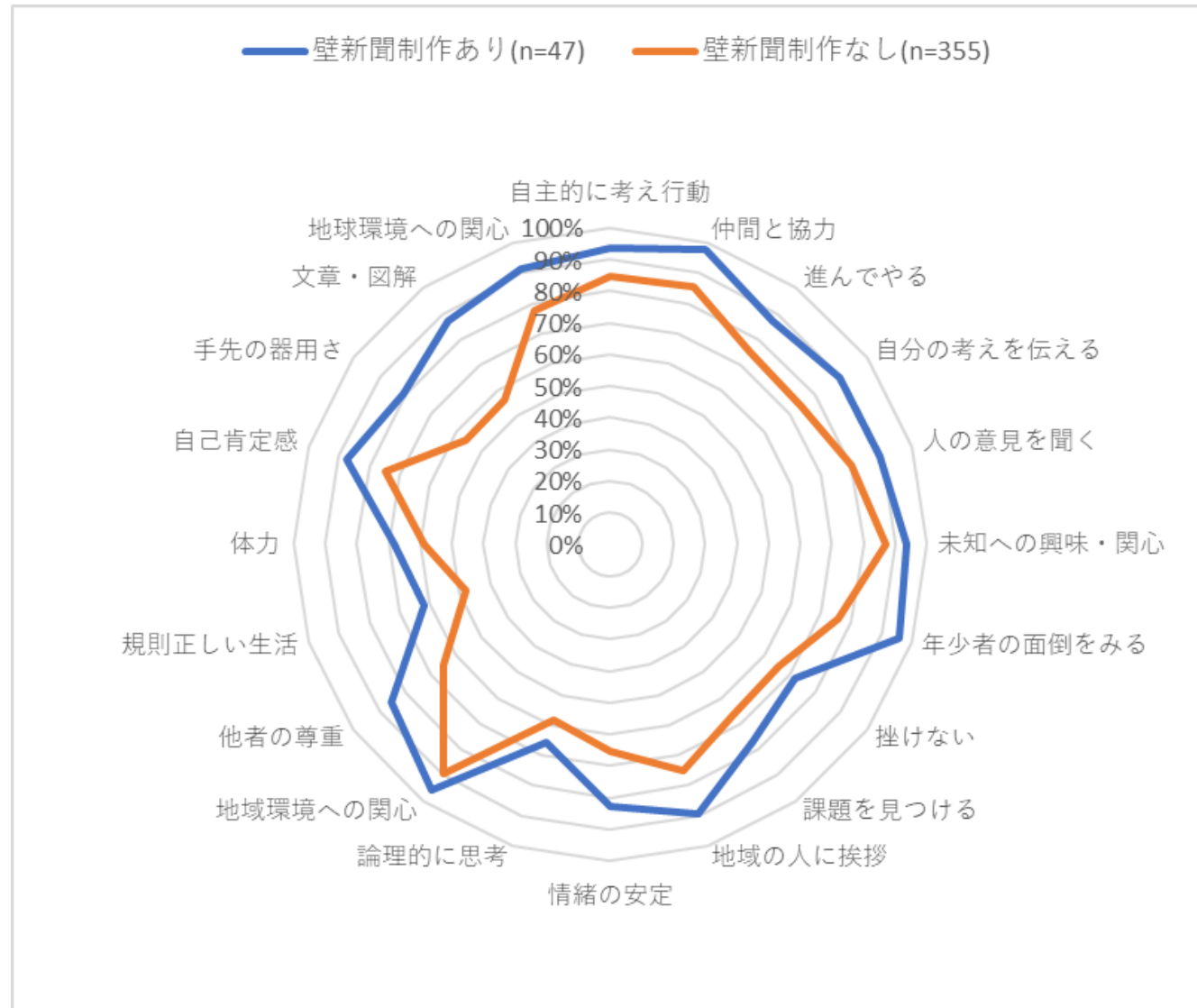
活動年数と子どもの成長（2）

- 右の図は、活動年数別に子どもの成長について肯定的な回答（「強く思う」「思う」）をしたクラブの割合を表したものです。
- 長く活動するほど成長を実感する項目が多くなります。特に「仲間と協力」「地域の人に挨拶」「手先の器用さ」「文章・図解」は、長期の活動によって身につくものと思われます。
- 継続2年目であっても「自主的に考え行動」、「進んでやる」などの自発性、「自己肯定感」、「未知への興味・関心」、「地球環境への関心」を感じるクラブがたくさんあります。今後も継続を促す活動を増やす取組を進めます。



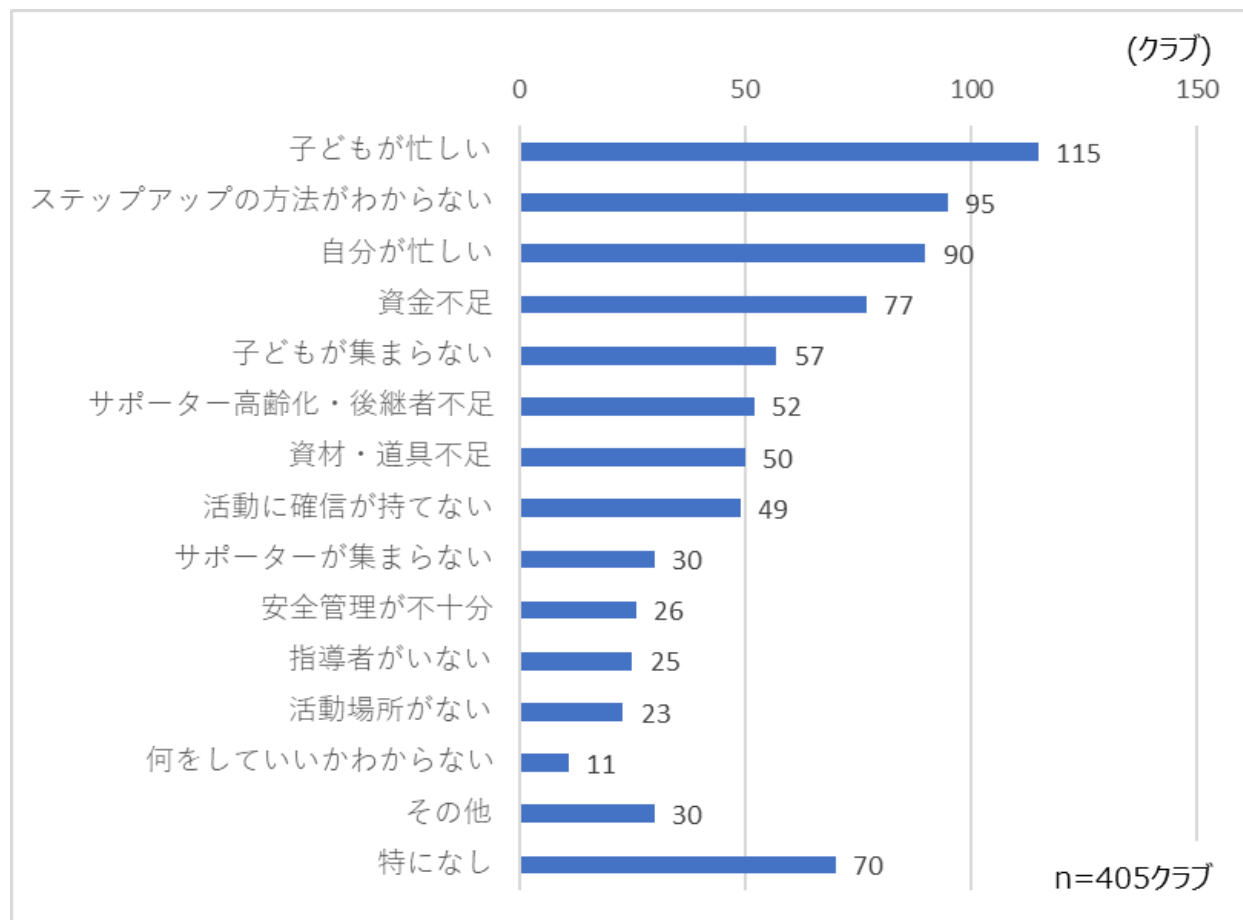
壁新聞と子どもの成長

- 右の図は、壁新聞を制作したクラブと制作しなかったクラブを比較し、子どもの成長について肯定的な回答（「強くそう思う」「そう思う」）したクラブの割合を表したものです。
- ほぼ全ての項目において壁新聞を制作したクラブが子どもの成長をより感じています。
- 特に「自分の考えを伝える」、「文章・図解」、「年少者の面倒をみる」、「他社の尊重」などの項目で大きな差があります。
- 壁新聞は子どもの成長を促す良いツールですが、まだ壁新聞を作るクラブが少ないため、壁新聞を作るクラブを増やす努力を今後も継続して参ります。



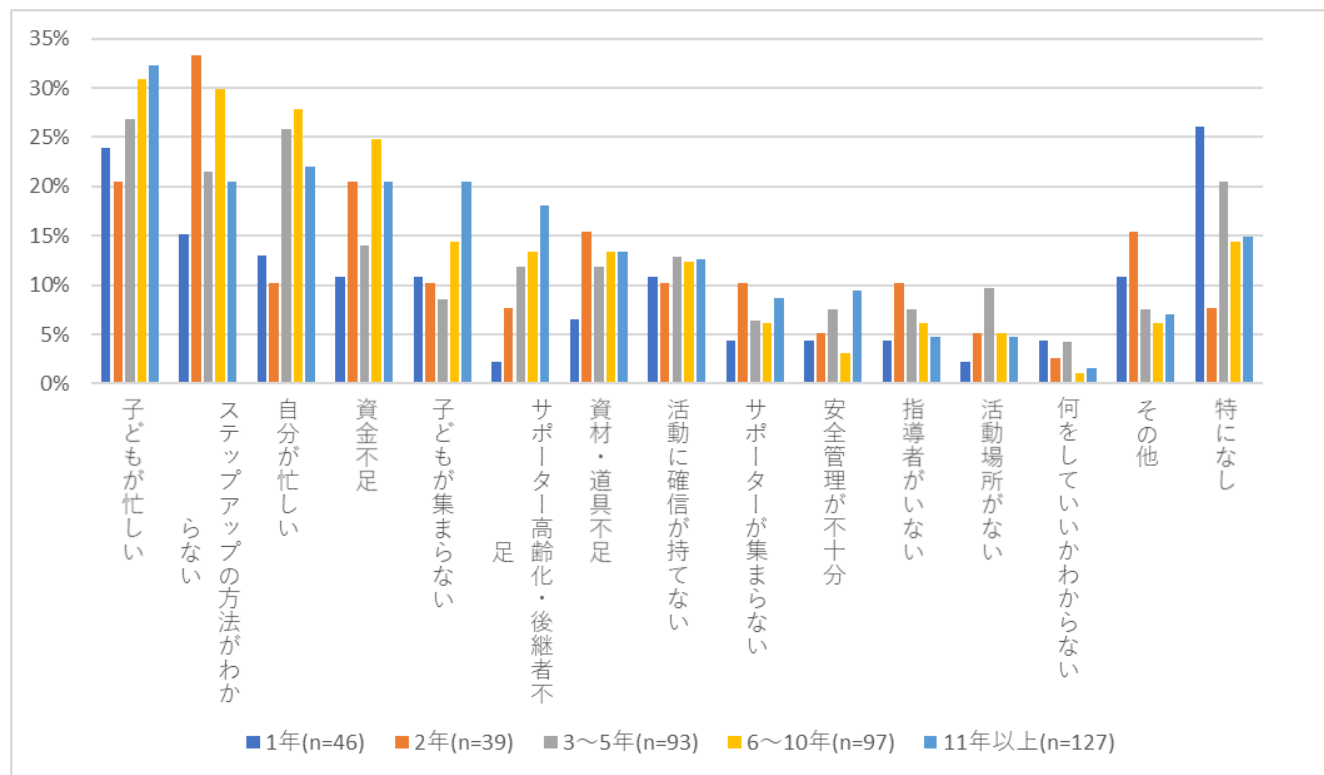
サポーターの悩み（1）

- 右の図は、サポーターが課題として感じていらっしゃることを複数回答で答えていただいた結果を表したものです。
- 子どももサポーターも忙しくなっているとの回答がたくさんありました。「子どもが集まらない」、「サポーターが集まらない」は忙しくなっていることも一因ではないでしょうか。
- 子どもの成長を促す方法がそれに続きます。ステップアップについては、壁新聞づくりが有効であることが裏付けられました。壁新聞づくりを通じて一年の活動をふりかえり、学んだことを仲間と共有するとともに、次年度の活動に活かすPDCAが定着するよう努めて参ります。



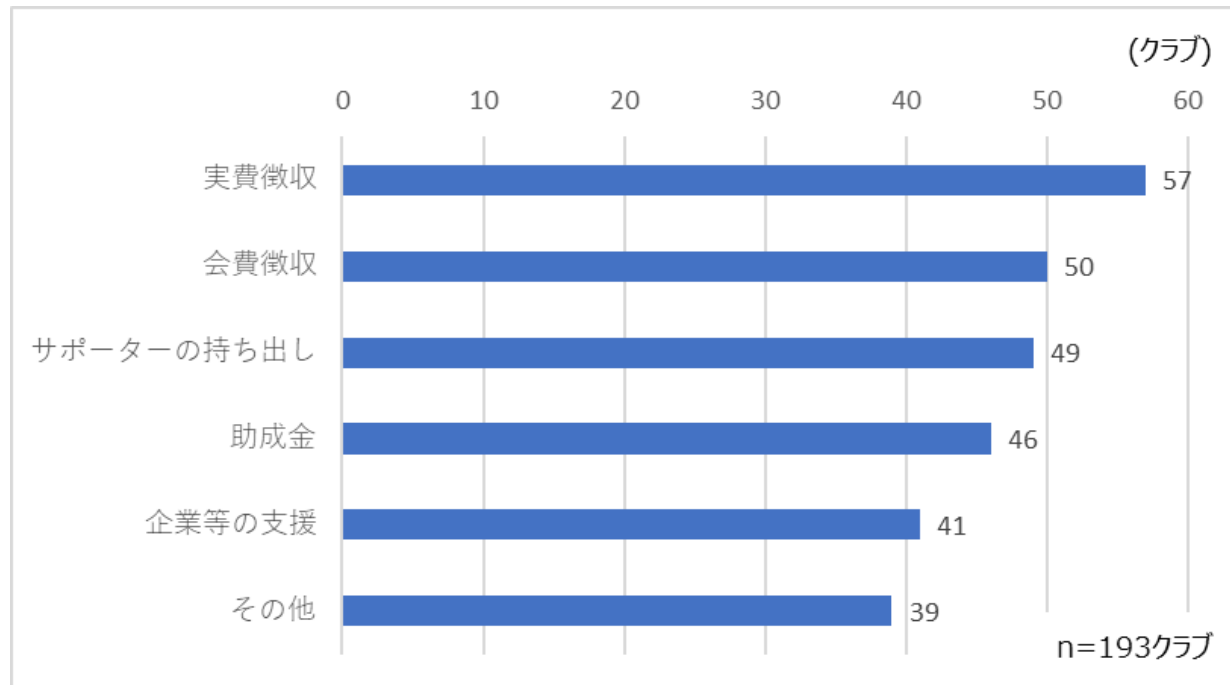
サポーターの悩み（2）

- 右の図は、サポーターが課題として感じている項目を継続年数とクロス集計したものです。
- 活動を始めたばかり（1～2年）のクラブではステップアップの方法、資金や資材、指導者の不足についての悩みが目立ちます。
- 一方、11年以上のクラブでは、子どもの多忙、子どもが集まらない、サポーターの後継者不足などを課題と感じている方がたくさんいらっしゃいます。
- 全国事務局では活動の継続年数に応じたきめ細かなサポートを強化します。



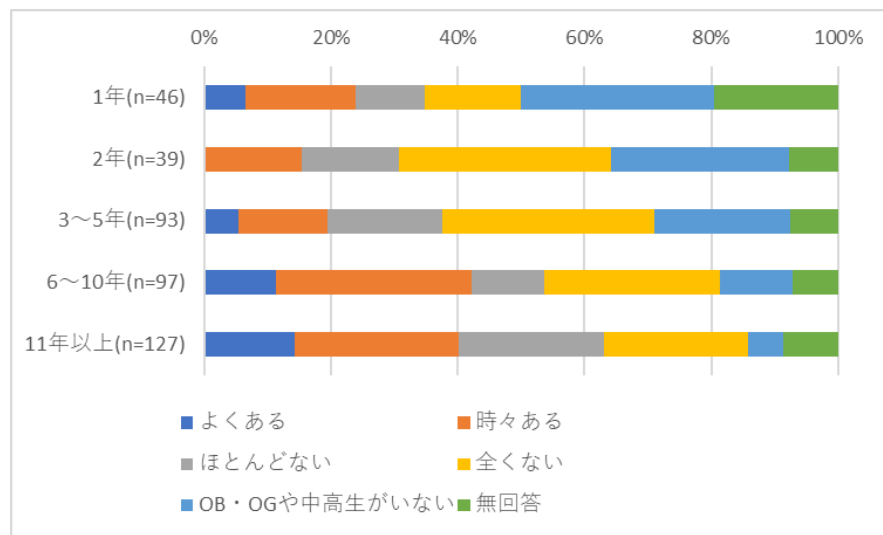
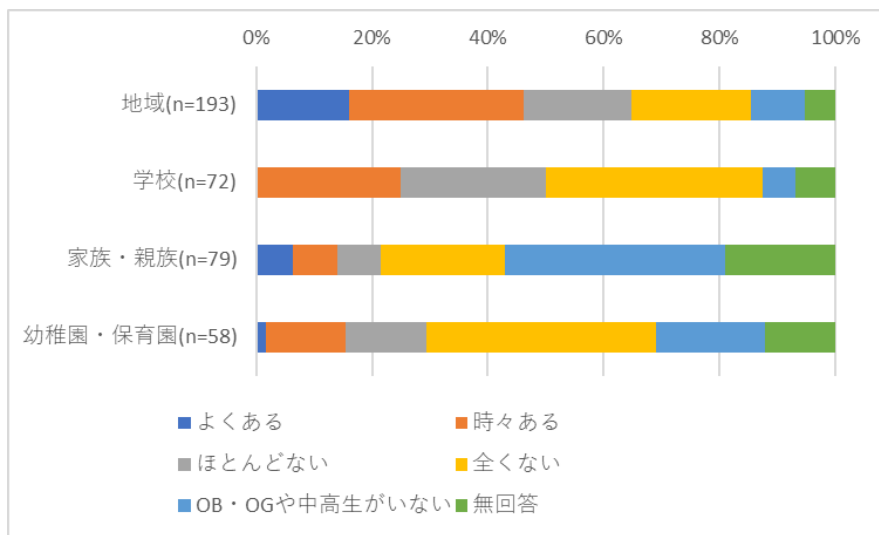
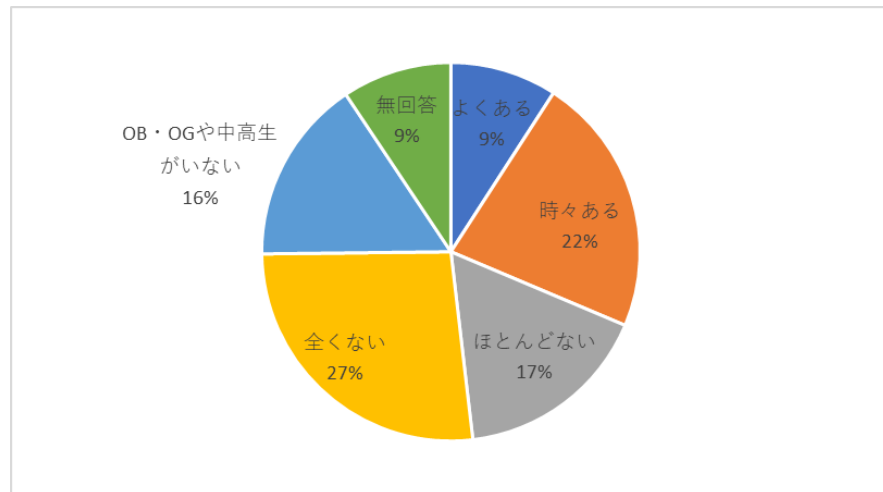
活動資金源

- 右の図は、「地域クラブ」が活動資金をどのように得ているかを回答していただいたものです。
- 各クラブが工夫して様々な資金源を用いていることがわかります。
- 「その他」の回答では「園や学校、自治体の予算の枠内で対応している」、「親団体からの支援」などがありました。



中高生メンバー、OB・OGによる活動支援

- 中高生メンバーやOB・OGが、活動の企画・運営や小学生メンバーの引率などのサポートをすることがあるか尋ねたところ、右の図のような結果となりました。クラブの形態別、活動年数別にみたものが下の図です。
- 異年齢のグループで活動する地域のクラブで、年数が長くなるほどユースが活動をサポートする割合が高くなっています。



サポーターが保有する資格

- サポーターが保有する、教育や環境学習・体験活動等に関連する資格について聞き、クラブ形態別に集計したところ右の図のようになりました。
- 地域クラブを中心に何らかの資格を有しているサポーターが存在しますが、半数近く(189クラブ)は救急法関連以外の資格を持たないサポーターによって運営されています。
- 誰でも始められ、続けられるのがこどもエコクラブの特長ですが、活動の幅を広げステップアップを図る上で、知見を有する人材が役に立つこともあります。サポーター自身が研鑽を積むことができれば素晴らしいですが、それが難しい場合には地域にいるそういった人材を発掘し、仲間に加わってもらうのも効果的でしょう。

